

◆クラブテーマ◆

「八重山の未来へ奉仕しよう」

会長：黒島 剛 副会長：大浜 勇人 幹事：吉田 貴紀 副幹事：松田 新一郎

公共イメージ委員長：山下 暢 SAA・出席委員長：玉城 カ

クラブキャッチコピー：島のリズムで伝える平和と奉仕のくくる(心)

今月のロータリーレート 1\$¥130

島素材の産物

～島の素材を活かす知恵と技～

【フクギ】

まっすぐに伸びる樹木は民家の周囲に植えられ防風林として、また、水道のない時代では、雨水を集める役割も担ってききました。樹皮からは黄色の染料が採れ、染色用に植えられたとの話も聞きます。伐採した幹が生乾きのうちに樹皮を叩いてはがし、炊き出した液を使用します。琉球王朝時代、黄色の着物は高貴な身分でしか身に着けられなかったともあり貴重な染料だったと思われます。先人達の知恵と技術を継承し、現代の工芸品にも使われ続けています。



[資料協力:福ん黄]



SERVE TO
CHANGE LIVES

奉仕しよう みんなの人生を豊にするために

2021-22年度RIテーマ

RI会長：シェカール・メータ

地区ガバナー：若林 英博 氏

「世界で、日本で、地域で良いことをしよう」

☆大きな目標と5項目☆

- 1.新型コロナウイルスで困っている人々を支援しよう
- 2.ポリオ根絶に向けて頑張ろう
- 3.元気なクラブになろう
- 4.会員増強・クラブ拡大をする覚悟をもとう
- 5.ロータリーの公共イメージをアップさせよう

5月のプログラム

5/18(水)ゲスト卓話:ファンライン エリック氏

5/25(水)入会式

例会日 水曜日 12:30~13:30
事務局 〒907-0013 石垣市浜崎町 1-1-4
URL <http://ishigaki-rotary.jimdo.com>

例会場 アートホテル石垣島 (0980) 83-3311
TEL/FAX (0980) 83-2917
E-mail ishiroatary@ninus.ocn.ne.jp

☆総会員数:48名 出席義務会員数:47名
 ☆出席人数:30名 欠席人数:17名 出席率:63.83%
 <司会進行:大本 綾子>
 ☆ロータリーソング:君が代 四つのテスト
 ☆ソングリーダー:宮城 早人
 ☆ゲスト:黒島 直人様(八重山高等学校 校長)
 ☆メイクアップ:南波 正幸 遠藤 正夫 森田 安高
 大城 文博 小林 昌道

会長挨拶:黒島 剛



私ごとではありますが、郷土芸能の舞台監督をしていて、この間の5/8に復帰50周年母の日特別講演を、コロナ対策を万全にして、千人入る会場に五百名のお母さんたちを案内して、八重山芸能の「母の日講演」を行いました。郷土芸能の夕べというのは、八重山で活躍している20団体の舞踊研究所と15団体の三線研究所と年間通してやっていますが、2年間コロナの影響で休止をしていましたが、3年ぶりに母の日講演をしました。帰りに85歳のおばあちゃんが、担当者を呼んでということで私が呼ばれて行きましたら、3年ぶりに八重山の芸能を観て「久々に観たけど八重山の芸能はいいね、感動したよ、あなたたちはこれからも頑張るなさいよ」という励ましの言葉をもらって非常に嬉しく思いました。八重山の芸能といっても継続するのは結構たいへんで、若い人に踊りを習わすのは難しい部分がありますが、これからも継続してやっていけたらいいなと思います。感動したという励ましの言葉をもらって、ますますこれからも八重山の芸能を大切にしていきたいなと思いました。それから若林ガバナークラブからも有り難くお礼状を頂戴いたしました。お陰様でオープン例会に参加した5名の若い方が来て、若林ガバナークラブの話も聞き、新たに2名の会員が入るといふ事になり嬉しく思っています。我々石垣RCも若い会員を増やしながらかつていけたらいいなと思っています。私の最後の事業で献血をします。これまで石垣RCの、のぼり旗が1本もなかったのが、石垣ロータリークラブとロゴを入れて作ろうと思っています。いろんな事業をした時に写真を撮る時に横断幕もなく、いつも山下委員長に紙で作ってもらっていましたが、こういったものも作っておきたいなと思いますので、理事会で承認されました。コロナで困っている人のための事業ですが、6/10(金)にカネヒデの駐車場で行います。皆さんの会社の社員の方々にも来て頂いてたくさんの輸血ができればと思いますので、ご協力をよろしくお願い致します。今月末の地区大会には17名のメンバーで行く事になっています。まだ地区会に参加した事がない方は、ぜひ参加してロータリーを知って欲しいなと思います。私はあと1ヶ月半で会長職を終わりますが、今月の5/23に竹富小中学校にある指田文庫へ行って図書券を寄贈して来ます。また、竹富小中学校が130周年ということで、石垣RCに感謝状を贈りたいとおっしゃっていますので、諸先輩方を代表して行かさせて

ください。今日は、黒島校長の卓話です。宜しくお願い致します。

◆◆◆幹事報告:吉田 貴紀◆◆◆

前回のオープン例会と卓話をして頂きました、当地区の若林ガバナークラブより、お礼状が届いております。また、お手元にある銀座和光からお菓子を頂戴しておりますので、皆さんご賞味ください。続きまして、石垣市福祉部障がい福祉課より、ご協力のご依頼が届いております。皆様のお手元にもあると思いますけれども、自殺者対策相談窓口の周知を受けるご協力の依頼でございます。掲示期間は令和5年3月31日金曜日までとなっております。ご協力ができる方は事務所の方に掲示して頂きますようお願い致します。那覇西RCより、60周年記念式典祝賀会のご案内が届いております。6/18(土)16時より、沖縄ハーバービューホテルにて開催されます。5/13が登録期限となっておりますので、ご都合がつく方は期限までに事務局までご連絡をお願い致します。

◆◆◆会員・委員会からの報告◆◆◆

前原博一社会・青少年委員長:以前からお話していた「新型コロナウイルスで困っている人を支援しよう」の事業がありますが、6月に献血移動車が石垣に来ます。その献血移動車に関して、ロータリークラブとして支援しようという事の計画をしています。午前の部と午後の部がありますので、それぞれの部に会員5名ずつ程度で支援活動が出来たらいいなと思っています。具体的な内容に関しては、協議会の方と打ち合わせをして、どういった支援の内容になるかは来週には決まります。会員の皆さんの社員やご家族なども、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。6/10(金)にカネヒデの駐車場になります。また改めてご案内いたしますので、ぜひご協力をお願い致します。

◆ゲスト卓話:黒島 直人氏◆

(沖縄県立八重山高等学校 校長)

テーマ:八重山高校の役割と課題



石垣RCの皆さん、こんにちは。今日は、講話という形でお時間をいただきましてありがとうございます。同級生の新垣精二くんから依頼がありお引き受けすることになりました。どうぞ宜しくお願いいたします。八重山高校の概要ですが、1942年に、沖縄県立八重山中学校、沖縄県立八重山高等女学校が創立されています。その5年後の1947年に学制改革により2校を統合して八重山高等学校が開校されました。今年で80周年になります。校訓は「学徳」「進取」「雄飛」の3つの言葉を校訓にしています。それから校是に「師弟同行」というものを制定しています。昭和63年度より「発展クラス」学級固定習熟制度を導入して、今年度で34年目を迎えます。導入当初は、琉大に推薦を除いて一人も入れなかったという学力問題がこの八重山でありましたので、学力問題への高まりに応える形で導入をしたという経緯があります。どういふふうクラス編成をしているかという、毎年、希望者を募り、学業・勤怠等で上位40名を選抜してクラス編成をしているということです。今6クラスありますが、その1クラスが発展クラスという形になります。発展クラスも他の授業と一緒になんです、まずは課外講座を早朝と放課後にございます、それを必修にしてやります。学校が指定している各種模試を必修にしている形になります。学校の寄宿舎は定員が60名です。八重山の3市町及び郡外の生徒を受入れています。60名の定員ですがほぼ満員です。

また、泊高校の通信課程の協力校にもなっています。生徒の課外活動が盛んです。全国大会日本一が6部門で10回あります。では、八重山高校の社会的役割ということで話しをしていきたいと思えます。今年度からスクールミッション、スクールポリシーをWeb ページで公開するようになっていました。その社会的役割ということで、八重山高校はこの文章を載せています。簡単に言いますと「地域の未来を創造する意欲を持った生徒の育成」地域で育てるということですが、未来を創造するということを第一に考えています。具体的は二つの役割について掲げています。【やいまを織り、やいまを守り、やいまを継ぐ】教育活動を実践し八重山に社会に貢献できる生徒の育成。やいまを織り、やいまを守り、やいまを継ぐというところですが、生徒としてなかなか八重山を知ることがないだろうと、まずは知り、それで八重山を守り、この自然をきちっと守っていきこう。そういった事でやいまを持続可能な地域として継いで行こうというところをこの言葉に盛り込んであります。そういった生徒を育成したいと思う次第であります。もう一つには、主体的な生涯学習として、志のある自己実現を果たす生徒の育成。主体的な生涯学習というのは、一生勉強しなければならないよという意味を含めてあります。志のある自己実現、ここは夢実現でもいいのですが、夢としますと自分の利己的なものだけに留まるのではなくて、リーダー的な、地域や社会といったところに貢献できるように、ということで志のある自己実現を果たすというふうにしてあります。八重高の社会的役割はこの二つに尽きるのではないかなと私は思っています。では、具体的にどういったことをやっているかという事で「八重高生のめざす」ところを話していきたいと思えます。まずは校訓があります。「学徳をみがく」「進取の精神を学ぶ」「雄飛する人生をめざす」この校訓を具現化するために、文章化して中学生に分かりやすくしているところです。学徳をみがく「世の中の役に立つという志を持って事故の進路を切り拓く生徒」、進取の精神を学ぶ「仲間と協働して積極的に学びたい気持ちのある生徒」、雄飛する人生をめざす「世界を知り、志のある自己実現にチャレンジする生徒」昔は、世界に飛び立とうというような形を私も考えていたんですが、最近はこの地域を盛り上げていくような人材が必要ではないかなと思っています。ただ、グローバルも必要ですので「世界を知り」というのもここで入れてあります。この三つを生徒と目指して行くということで掲げています。実際には、八重高生は何事も一所懸命ということで、生徒・先生も共に学ぶ師弟同行のもと、3年間で行事で盛り上がり、座学で学んだことを実際に確認するという野外活動の取り組みをしています。こういった師弟同行活動のもと、やっていって3年間の学びの集大成が卒業式であるというところ。そういった教育活動を目指しています。八重高生のめざすところ。勉強・課外活動を通して、知識・技能、協働して考え、実行する力を高める。志(夢)の実現をとおして八重山に貢献する心を育む。一言で言いますと「志のある自己を実現する力」を身につけて卒業して欲しいなということを考えています。それをイメージ化すると、二年前にありました悲願の県大会制覇、郷土芸能の二度の日本一というところ。小中学校で鍛えられたヒナ鷲が、八重高の三年間で若鷲となって飛び立つ。Uターンする生徒もいるでしょうけれども、本土、世界に飛び立ってもいいんだけど、

郷土のことも地域のことを考えられる生徒に、そういう心を持って欲しいなと私は思っています。では、本題です。課題があります。課題として私が考えるのは五つあります。(1)入学定員の確保。4クラス240名です。農高が160名商工160名、全体で560名プラスアルファで定時に支援学校がありますけれども、定員割れしています。今年、八重高は初めて44名の大きな定員割れをしています。入学定員の確保、これをどうするか、私はこれが一番大事なかなと思っています。それから(2)希望進路の実現、今年度は94.1%進路決定率でわりと高い方なんです、全国平均が95%ですので、そこまで目指していきたいなと思えます。沖縄県は80何パーセントで八重高の方が上ですけど、それでも希望進路の実現を課題として上げています。(3)自宅学習の定着、勤怠状況の改善ですが、部活動を一所懸命が分かりませんが、自宅学習は30分未満です。もちろん2時間や3時間やっている生徒もいますが、平均するとそういうふうになりますので、これをどうするかという事ですね。(4)自転車・スマホのマナーの向上。9割が自転車で登下校しています。年に5、6件の事故がおこっていますので、その対策を立てなければいけない。それからスマホ、これは直近課題となっています。(5)働き方改革対応、これに対応していかなければならない。県立高校ですので、離島勤務が3年で変わります。これはちょっと短いのではないかないう部分もあります。一時期、5年にしたんですが希望者がいなくなったので、また3年に戻したんです。そこは問題かなと思うところがあって課題にしています。すぐに成果は出ませんが、どうにかして解決を図っていききたいなと思っています。今日は全部を話せませんので、(1)入学定員の確保、そこに話を集中させたいと思えます。まずは①少子化傾向が止まらない。これは全国の流れです。②高校生の島外流失が止まらない。③高校までは地元の高校で④北西部地区の教育環境の向上。

子どもの人口1,465万人で41年連続...22年ぶり全都道府県で減少というのが最近の読売新聞の見出しです。県のもんですが、中学校3年生の在籍推移は少子化傾向です。令和3年の15,808人がピークですが、これからも下がっていくと思います。八重山地区の高校入学状況ですが、中学生の在籍数と高校生の在籍数で令和3年には、104名の差が出ていて、慢性的に定員割れの状態ということです。ぜひとも高校までは地元の高校で過ごしてほしいなと思えます。多感な時期を共に過ごすことで、友人の輪が拡がり強固になる。新垣精二さんともそういう仲です。彼が言ってきたことはイヤとは言いません。強固になるというのはやっぱり高校時代を一緒に過ごしたからだと思っています。ぜひそういった意味で中学生が八重山の高校で学ぶという事を考えてほしいなと思えます。我々が出来ることは、地元の中学生に選んでもらえる学校作りということです。勉強や部活動で成果をあげる、中高の連携しかないかなと思えます。もちろん高みを目指すという生徒もいるでしょう。そういったところはしょうがないとして、2クラスではなくせめて1クラスに減らせないかなと私は思っています。中高連携をとっていききたいなと思っています。

それから北西部地区の教育環境をどうにか改善できないかなと思っています。子育てのしやすい地域にすれば、また利便性の良い地域にすればどうかというところ。平久保小の休校間

題があります。これも教育環境が整えば休校もなかったかもしれません。現在の北西部地区のバスの運行状況を取り上げてみますと、上に川平リゾート線 7:18 に川平発、吉原線 7:57 に出ます。北部から登校時の利用不可となっています。早朝講座は 7:30 から始まります。これはどちらも対応できません。始業時間は八重山高校、八重山商工ともに 8:45 からです。八重山農林は 8:50 からです。なぜ農林が 8:50 からにしたのかというと 8:37 にしか登小前に着かない、走って行かないと間に合わないんです。こういいたところを変えてほしいなと思っております。それから下り線です。登小前 18:15、毎日新聞社前 18:25 です。下校時刻は 19:30 です。部活動して帰るには、途中で帰らなければなりません。勉強する生徒もいるだろうし、バスを登下校の時刻で利用できるように、どうにか工夫ができないかなと思っています。そこを改善してほしいなと思っています。すぐに改善できるかどうか私は分かりませんが、あえて今日は経済人の方々へお願いして、工夫ができないかなと思っています。あと学寮ですが、竹富町と与那国町には補助金が出ています。石垣市にはそれがあ

りません。石垣市の高校寮生修学援助・奨励金交付規則の制定教育への経済的支援の充実を石垣市へ諮ってほしい。北西部地区からのバス通学可能教育への経済的支援の充実、ぜひ早めの制定をお願いしたいと思います。何回か市議会で取り上げられているみたいですが、有耶無耶になっているのか、分からない状況のようです。学校側は基本的には、中学生が来るような工夫をしますけれども、環境の面は、行政や経済界の皆さんの協力が必要だと思いますので、ぜひお願いしたいと思います。

まとめ...八重山高校は、地域に貢献する人材の育成を担っている。地域との連携・協力体制を強固にして、地域に根ざした教育を実践したい。大きな問題ですけれども、中卒生の島内流失を減らす方策をどうにか学校側と地域、行政、経済界の皆さんが協力してやっていったらどうかというふうに思います。

最後に、今年は八重山高校創立 80 周年です。記念式典が、令和 4 年 11 月 19 日(土)にございますので、ぜひ御支援、御協力の程、どうぞよろしくお願い致します。拙い話でした。どうもありがとうございました。

～ 例 会 風 景 ～



記念にバナーを



黒島直人校長 卓話ありがとうございました。

本日のニコニコ: ☆黒島剛氏: 黒島直人校長、今日は卓話ありがとうございました。☆上勢頭保氏: 黒島直人 八重山高校 校長の卓話に感謝申し上げます。☆橋本孝来氏: 黒島先生 卓話ありがとうございました。☆大浜勇人氏: 黒島様 卓話ありがとうございました。☆宮城早人氏: 黒島校長、卓話ありがとうございました。☆西敦之氏: 地区協議会、出席会員の皆様おつかれ様でした。黒島校長、本日はよろしくお願ひ致します。☆松田新一郎氏: 黒島様 本日は、ありがとうございました。P.S. 研修協議会のおつり入ってます!! ☆新角栄氏: 黒島校長先生 卓話勉強になりました。ありがとうございました。同級生です。☆垣本徳一氏: 黒島直人校長、卓話ありがとうございました。

◆BOX ¥7,000 (累計 ¥281,450) ◆コイン ¥2,925 (累計 ¥60,456) 合計 ¥341,906



仁開一夫氏 3日(火) 宮城隆氏 6日(金) 漢那憲隆氏 14日(土) 大浜勇人氏 15日(日)

